

# WVA!



No. 11



## 地域の絆と子ども会

四方を山に囲まれた小さな集落で私は生まれ育ちました。小学校の時も9人という少人数のクラスでしたが、先生との関係や生徒同士の絆も深く、全校生徒が友達のような感覚で6年間を過ごしました。

そんな私の母校も、学校統廃合が進められる中で来春には廃校になることが決まりました。どんな小さな村にも小学校があり、運動会や学習発表会その他の行事で地域のみんなが集まって親交を深めてきましたが、本当に淋しいかぎりです。先日この地域の恒例行事が小学校の体育館で行なわれ、最後の卒業生になる子ども達の合唱がありました。それを聞きながら、この学校で経験した多くの思い出が心に湧き上がってきて感慨深いものがありました。

この地域のお寺の子ども会も歴史が古く、現在は二カ寺が交代で毎月第2土曜日に「仏の子子ども会」を、また夏には「夏休み大会」を行っています。子どもさんが少なくなる中で今年も「第41回 仏の子夏休み大会」を行いました。保護者の方や総代さんや仏壮・仏婦の役員さんを合わせて30名ほどがお寺で楽しく一日を過ごしました。一方で、小学校が無くなる来降の子ども会はどうなるだろうかという不安もあります。小学校が無くなる地域のおとなと子どもが親交を深める場も少なくなると思うので、地域の親交を深める行事の一つとして子ども会を続けていけたらなあと思っています。



平成22年7月1～2日と、島根県松江市において中四国ブロック少年連盟指導者研修会が行われ、各地より約60名の方が参加されました。会場はホテル宍道湖において両日共に内田正祥先生（連研中央講師）よりご講義をいただき、2日目には話し合い法座の形式で研修を致しました。

1日目の研修①は内田先生に『みんなほとけの子』という講義で、「子どもたちに向けての法話」を先生のご自坊での経験をもとにお聞かせいただきました。先生が子どもたちとのやりとりの中から出てくる疑問に対して、答えたときの会話そのものが講義になりました。その一部分ですが「アミダさまおるんやったら見せて？」と言う子どもへの問いに対して、先生は「みんな、ほとけの子どもで、今は如来さまのお腹の中に居るのですよ。だから如来さまのお姿は見えないのです。みんなお母さんのお腹

から生まれてきたのですが、生まれ出てくるまでお母さんの姿を見ることはできません。つまり、ほとけに生まれさせていたただいて初めてアミダさまを見ることが出来るのです」と、誰にでも分かりやすいようにお答えをされています。講義の中で「アミダさま・如来さま・ほとけさま」と、先生ご自身の感覚で使い分ける話し方は、私にアミダさまの呼び名と使い分けの意味を考える機会となりました。

そして夜には同ホテルにて、内田先生ご同席のもと懇親会が行われました。日頃なかなか顔を合わせて話すことの少ない各教区の方々とも語り合うことができました。

また山陰教区の方も参加して、ギニアの太鼓ジャンベの演奏とアフリカンダンスが披露されました。懇親会の方がさらに盛り上がり、楽しい時間を過ごすことができました。

翌2日目の研修②も、内田先生の講義にて『子どもと関わり合って気付いたこと』についての問題提起をいただきました。先生のお寺での日曜学校と、我が子から感じ取った、子どものこころの変化について話されました。ささいな子どもの悩みに、大人の気付きが必要であることから、これについて各6つの班に分かれて話し合いを致しました。各教区の方々から日曜学校やサ

マースクールを通じて「子どもとの関わり合い」の中で気付きや、教え方、叱り方などを聞かせていただき学びました。話し合う中で、同じ悩みや想いを共有できたことは、本当に嬉しく思います。

今回の指導者研修会に参加させていただきました。これからの少年教化への励みとなりました。日曜学校や子どもとの関わり合いを通じて、お寺とみ教えがこころの支えと成るよう努力してゆきたいです。次回の研修会は平成24年に備後教区の担当で開催されます。

（賀茂東組・正覚寺 久保田城郷）

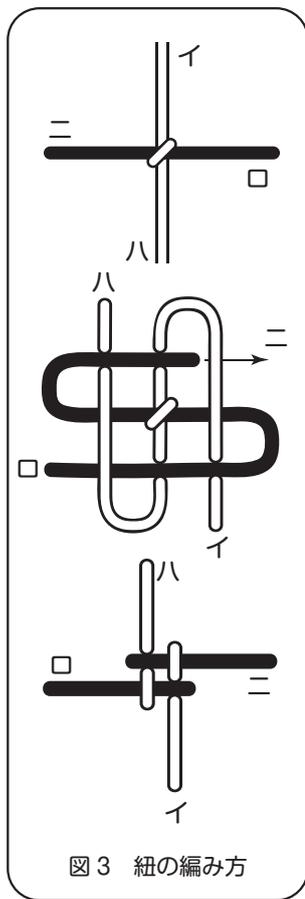


図3 紐の編み方

⑦ 次の編み目は反対方向に同様に編みます。この作業を10回程度繰り返します。

⑧ 最後に同色の2本、もしくは一番長い一本の紐で、すべての紐を包み取るように結びます（図4参照）。結び終わったら、4本の紐を同じ長さに切りそろえて完成です（長さは好みです）。

紙面では作り方をなかなかお伝えできにくいのですが、以上が作り方の手順です。私は初めての挑戦でしたが、まずまずの出来映えで作ることが出来ました。完成したお念珠をお寺に持ち帰り、次の日、お参りに行った先でご門徒に自慢すると、何と「あら、丁度うちにも切れたのがあって、修理をお願いしますか」と修理を頼まれたのでした。早速、研修の成果を発揮する場をいただいたことでした。

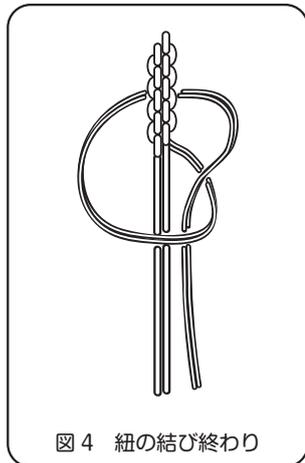


図4 紐の結び終わり

参考図提供：(株) 三村松

## お念珠づくり

前期指導者学習会

(5月27日 本願寺広島別院 大会議室)

5月27日(木)、安芸教区少年連盟総会に引き続いて、平成22年度の前期指導者学習会が広島別院にて行われました。今回は、三村松のスタッフ2名の指導で、約15名の参加者が、お念珠づくりを体験しました。

蓮如上人は、「真実信心を獲得した人は、かならず口にも出し、また色にもそのすがたはみゆるなり」と仰り、また「聖人、まつたく「数珠をすてて仏を拝め」と仰せられたることなし」と示して、念仏者がお念珠を持つことを勧められました。今日においても、お念珠は、僧俗問わず最も身近な法具といえるのではないかと思います。そのお念珠づくりを学ぶ機会を頂いて、私もワクワクと胸をときめかせながら受講しました。

お念珠づくりといっても、珠を削るところからではなく、あらかじめ珠と紐が入ったセットが準備されたところから始まります。珠の色は、茶色、緑色、オレンジ色とありましたが、私はオレンジ色を選びました。意外にもオレンジ色が一番人気だったようです。

お念珠セットが各参加者に行き渡ると、

① まず、紐を珠に通しやすくするために、紐の先を千枚通しでトントントンとほぐします。このとき下敷きを敷いて、机が傷つかないように注意します。

② 次に、ほぐれた紐の先端をカッターナイフでごぼうをそぐように削って尖らせ、珠の穴に紐を通しやすくします。

③ ある程度削ったら、紐の先端をクルクルと細く丸めてセメンダインで固めます(家で試すと木工用ボンドでも何とかできます)。

④ 次に、まず親玉(穴が三つある珠)に紐を通します。親玉に通すときは細い針金を固めたひもにかけてうまく誘導します(図1参照)。珠には種類がありますが、完成品を参照すると、紐を通すときに順番を間違いくいと思います。

⑤ 紐を通し終わったら、紐の長さを両端が同じになるように調整します。調整すると、もう一本、別の紐を準備します(違う色の紐にしても良いです)。新たな紐の中心を珠を通した紐で結びます(ごく普通の結び方)。(図2参照)

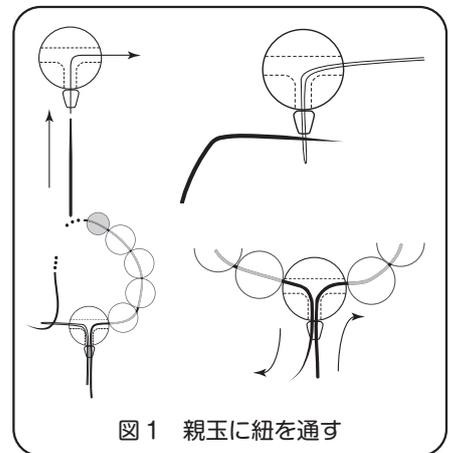


図1 親玉に紐を通す

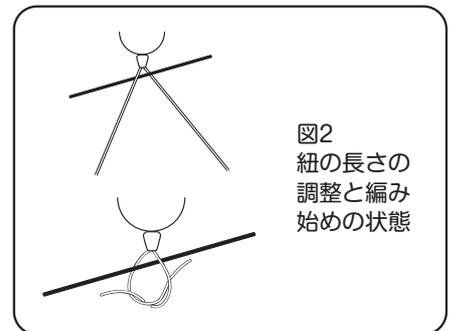
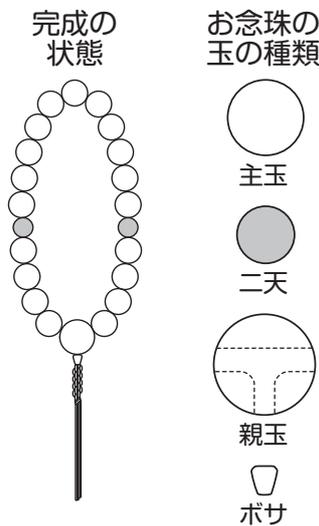


図2 紐の長さの調整と編み始めの状態



ご指導は、左から池田さん・尾川さん

⑥ 次に房を編みます。紐が四本になっているはずなので、上下左右に広げて十字にします(上下左右に広げた紐を、便宜的にそれぞれイ、ロ、ハ、ニと名付けます)。イの紐をロの紐の上に、ロの紐はイの紐を包み取るようにハの紐の上に、というように順々とホの紐をハの紐を包み取るようにし、またイに包み取られるように紐を通します(図3参照)。うまく通せたら全ての紐をギュッと引っ張ります。これで一つの編み目が完成です。



平成22年10月23日(土)に「第43回報恩講子ども大会」が広島別院において開催されました。

今回は天候も良く、四百名をこえる参加があり、子ども達の元気な声が別院に響き渡りました。

開会式では各単位会で作製したプラカードを持って入場、覺法寺日曜学校の村上瞭之助君が調声をし、全員で「らいはいのうた」を唱和しました。

続いて田阪法雄先生によるご法話があり、「自分ではなかなか気がつかないけれど、全てのはみな縁によって、つながっているんですよ」というお話をいただきました。

その後は、恒例の「わいわいランド」でした。今回から「腕輪念珠作り」と、たべ

ものコーナーの「カレーライス」が登場。どちらもなかなか好評でした。

午後からのアトラクションは、古今亭菊志ん師匠による落語会。落語のいろはから始まり、子ども達を壇上にあげてまんじゅう・そばを食べるしぐさを真似る落語講座、そして菊志ん師匠の古典落語と大変な盛り上がりでした。

今大会も皆さんの協力のおかげで盛会のうちに終えることができました。この報恩講子ども大会をご縁として、子ども達だけでなく、引率で来られた先生方、私達スタッフ、そしてお手伝いしてくださった皆さんが阿弥陀さまに手を合わせる機会をいただいたことを共に喜ばせていただきたいと思います。



## 第43回報恩講子ども大会

●皆様からの少年連盟への情報やニュースを募集いたします (教務所 kyouku@aki.or.jp まで)

# WVA!



No. 11



## 地域の絆と子ども会

四方を山に囲まれた小さな集落で私は生まれ育ちました。小学校の時も9人という少人数のクラスでしたが、先生との関係や生徒同士の絆も深く、全校生徒が友達のような感覚で6年間を過ごしました。

そんな私の母校も、学校統廃合が進められる中で来春には廃校になることが決まりました。どんな小さな村にも小学校があり、運動会や学習発表会その他の行事で地味のみんなが集まって親交を深めてきましたが、本当に淋しいかぎりです。先日この地域の恒例行事が小学校の体育館で行なわれ、最後の卒業生になる子ども達の合唱がありました。それを聞きながら、この学校で経験した多くの思い出が心に湧き上がってきて感慨深いものがありました。

この地域のお寺の子ども会も歴史が古く、現在は二カ寺が交代で毎月第2土曜日に「仏の子子ども会」を、また夏には「夏休み大会」を行っています。子どもさんが少なくなる中で今年も「第41回 仏の子夏休み大会」を行いました。保護者の方や総代さんや仏壮・仏婦の役員さんを合わせて30名ほどがお寺で楽しく一日を過ごしました。一方で、小学校が無くなる来年以降の子ども会はどうなるだろうかという不安もあります。小学校が無くなる地域のおとなと子どもが親交を深める場も少なくなると思うので、地域の親交を深める行事の一つとして子ども会を続けていけたらなあと思っています。



平成22年10月23日(土)に「第43回報恩講子ども大会」が広島別院において開催されました。

今回は天候も良く、四百名をこえる参加があり、子ども達の元気な声が別院に響き渡りました。

開会式では各単位会で作製したプラカードを持って入場、覺法寺日曜学校の村上瞭之助君が調声をし、全員で「らいはいのうた」を唱和しました。

続いて田阪法雄先生によるご法話があり、「自分ではなかなか気がつかないけれど、全てのはみな縁によって、つながっているんですよ」というお話をいただきました。

その後は、恒例の「わいわいランド」でした。今回から「腕輪念珠作り」と、たべ

ものコーナーの「カレーライス」が登場。どちらもなかなか好評でした。

午後からのアトラクションは、古今亭菊志ん師匠による落語会。落語のいろはから始まり、子ども達を壇上にあげてまんじゅう・そばを食べるしぐさを真似る落語講座、そして菊志ん師匠の古典落語と大変な盛り上がりでした。

今大会も皆さんの協力のおかげで盛会のうちに終えることができました。この報恩講子ども大会をご縁として、子ども達だけでなく、引率で来られた先生方、私達スタッフ、そしてお手伝いしてくださった皆さんが阿弥陀さまに手を合わせる機会をいただいたことを共に喜ばせていただきたいと思います。



## 第43回報恩講子ども大会

●皆様からの少年連盟への情報やニュースを募集いたします (教務所 kyouku@aki.or.jp まで)